

令和8年度球磨清流学園働き方改革推進プラン

1 基本方針

教職員が健康で生き生きと勤務できる環境を整え、教職員自身が「働きがい」と「ウェルビーイング（心身の健康）」を実感できる環境を実現し、児童生徒と向き合う時間を確保する。

2 現状の課題

- 月 80 時間を超える時間外勤務者が数名（5 名弱）いる。
- 会議が長く、放課後の教材研究の時間が取れない。
- 部活動の指導により、土日の休息が不足している。

3 具体的な取組計画（4つの重点）

【重点1】校務DX

AI やデジタルに任せられる業務を手放し、負担軽減を図る。

- ① AI 時間割作成ソフトの導入
- ② 複雑な調整業務を AI に任せ、管理職や教務主任等が「カリキュラム・マネジメント」や「若手育成」など、本来の専門性を発揮できる時間を確保する。
- ③ ICT 支援員の確保とフル活用
- ④ 機器操作やトラブル対応を ICT 支援員の動きに一任し、教員は「ICT を使ってどんな授業をするか」という教育的な工夫に専念する。
- ⑤ 業務のクラウド化・ペーパーレス化
- ⑥ 個々人が作成したデジタルコンテンツを活用することで、教職員が日々の実践の中で工夫・活用しているデジタルコンテンツを幅広く共有し、教職員の業務改善や負担軽減を図る。

【重点2】チーム学校による「協働性の発揮」

子供と向き合う時間を増やすことで、教職の満足度を高める。

- ① 教員業務支援員、学習支援員の支援充実
- ② SC、SSW の支援充実
- ③ ICT 支援員の支援充実
- ④ 学校応援団の支援充実
- ⑤ アフタースクール（放課後子供教室）の充実

【重点3】部活動の適正化による「ワークライフバランス」

部活動の地域展開推進を図る。

- ① 休日の地域移行（展開）・外部指導者の活用
- ② 土日の指導を地域へ移行（展開）し、教員が「リフレッシュ」するか「専門競技の指導に専念する（兼職兼業）」かを選択できるようにし、納得感のあ

- る働き方へ転換する。
- ③完全休養日の厳守
 - ④平日・休日の休養日を確実に実施し、心身の余裕を取り戻す。

【重点4】ウェルビーイングと柔軟な働き方

- ①長期休業中の「時差出勤」と「学校閉庁日」
授業のない期間は、ライフスタイルに合わせた柔軟な勤務（早出・遅出）や長期休暇を推奨し、自己研鑽や家族との時間を充実させることで、新たな活力を養う。なお、「時差出勤」については、本年度から課業日でも取り組む。
- ②メンタルヘルスと職場の雰囲気づくり
- ③互いに感謝を伝え合ったり、同僚と語り合える時間を確保し、心理的安全性の高い（＝働きがいのある）職場風土を醸成する。

4 最終目標 (KGI)

- 時短の取組だけでなく、「働きがい」に関する指標を重視 —
- 働きがい・意識肯定率
90%以上
- 在校等時間
月 45 時間超 3 名以内
- 校務DXの推進
 - ・出欠連絡のデジタル化
 - ・学校からのお知らせメール
 - ・学校からの学級通信等を学校ホームページからログイン制限して閲覧
 - ・AI 時間割作成アプリ導入
 - ・グループウェアの活用等
- 学習支援員等との協働体制確立
- 休日部活動の地域展開移行
- 電話対応
 - ・留守番電話対応時間の拡大（18:00～7:30）
 - ・長期休業中の電話対応時間の短縮
- アンケート自動集計
保護者向けアンケートを Google フォーム等で行い、集計作業をゼロに。
- 共有フォルダの整理
前年度の資料をすぐに使えるよう、フォルダ階層を統一する。

5 評価と改善 (PDCA)

- 中間評価： 9 月（進捗確認と修正）
- 最終評価： 2 月（次年度への引継ぎ事項作成）